

ろまんたん
明治貴族が描いた未来 ～那須野が原開拓浪漫譚～

那須野が原の開拓の歴史が日本遺産に認定されました



5月24日に日本遺産認定証が交付された後、4市町合同の記者会見が那須塩原市役所で開催されました。(右から齋藤淳一郎矢板市長、津久井富雄大田原市長、君島寛那須塩原市長、山田正美那須町副町長)



▶ 会見後、関係者が那須野が原の美味しい牛乳で乾杯しました。

那須塩原市、大田原市、矢板市、那須町では、平成28年度から連携して、那須野が原の開拓の歴史や文化財を結び付けてストーリーを持たせ、「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」と題し、日本遺産認定に向けた取り組みを行ってきました。

この度、5月24日付けで、文部科学大臣から日本遺産認定証の交付がありましたので、ご報告いたします。

日本遺産の認定を受けたことで、構成4市町がさらに連携し、那須野が原地域の魅力発信のための各種事業、拠点整備事業等を展開し、国内外からの観光客の増加と地域経済の活性化につながることが期待されています。

今後、観光振興や地域経済の活性化に向けた事業を推進するために、構成市町や観光・商工団体等で組織する協議会の設立を予定しております。

認定タイトル

明治貴族が

描いた未来

～那須野が原開拓

ろまんたん 浪漫譚～

日本遺産に 認定された ストーリーの概要

わずか140年前まで人の住めない荒野が広がっていた日本最大の扇状地「那須野が原」。

明治政府の中枢にあった貴族階級は、この地に私財を投じ大規模農場の経営に乗り出します。

近代国家建設の情熱と西欧貴族への憧れを胸に荒野の開拓に挑んだ貴族たち。その遺志は長い闘いを経て、那須連山を背景に広がる豊饒の大地に結実しました。

ここは、知られざる近代化遺産

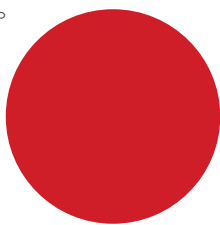
の宝庫。那須野が原に
 今も残る華族農場の
 別荘を訪れると、近
 代日本黎明期の熱
 気と、それを牽引した
 明治貴族たちの足跡を
 垣間見ることができます。

日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定する制度です。ストーリーの構成要素となる文化財群を総合的に整備活用することで、観光資源として積極的に国内外に発信し、地域活性化を図ることを目的とするものです。

文化庁は、東京オリンピック開催の平成32年(2020)までに100件程度の認定を目指しており、平成27年度18件、平成28年度19件、平成29年度17件の計54件がこれまで認定されてきました。

平成30年度に認定された13件を合わせると、合計67件となります。



JAPAN HERITAGE

日本遺産